

詩好の王様と棒縛の旅人

三遊亭円朝

青空文庫

昔時むかしシ、リーといふ島のダイオインシアスといふ国こくわう王がございました。此この王が好んこので詩を作りますが、俗ぞくにいふ下手へたの横好きよこずきで、一向上手かうじやうずでございませぬ。けれども自分では大層たいそう上手じやうずなつもりで、自慢じまんをして家来けらいに見せますると、国王こくわうのいふ事だから、家来が決して背きそむませぬで、「どうも誠に斯様かやうな御名作ごめいさくは出来できませんもので、実に御じつごめい名作めいさくで、天下てんかに斯様かやうなお作さくは沢山たくさんにございますまい。など、いふから、益々ますます国王こくわうは得意とくいになられまして、天下てんか広しと雖いへども、乃公おれほどの名人めいじんはあるまい、と思つてお在いでになりました。処ところが或時あるときの事でシ、リーの内で、第一だい番ばんの学者がくしやといふ、シロクシナスといふお精しやうりやう霊たま様の茄子なすのやうな人が参まゐりまして、王にお目通りめどほを願ねがひますると、早速つそくわう王は御自分の作つた詩を見せたいと思おぼしめ召よしたから、王「これ、シロクシナス、是これはな、予の近作きんさくで、一詩作つたから見て呉くれる。シ「は、ッ。国王こくわうの作つた詩といふから、結構けつこうな物だらうと存ぞんじて、手に取り上げますと、王「どうぢやな、自製じせいであるが、巧うまいか拙まついか、遠慮えんりよなしに申まうせ。シ「は、ッ。とよくよく目を注つけて見ると、詩などは円朝ゐんたくしは解わかりませんが、韻ゐんをふむとか、平仄ひやうそくが合あふとかいひますが、全まるで違ちがつて居をりまして詩にも何なんにもなつて居をりませぬ。シロクシナスは正直しやうちきの人だから、シ「へえ、

お言葉ではございますが、拙まつい巧うまいと申まうすは二の段だんにいたしまして、是これは第一だいいちに詩といふ
 ものになつて居をりません、御承知ごしやうちの通りとほ、詩と申まうしまするものは、必かならずらず韻みんをふまなけ
 ればならず、又平またひやうそく仄あが合あひませんければなりません、どうも斯かやう様なものを詩だといつ
 てお持ち遊あそばすと、上かみの御恥辱ごちじよくに相成あひなります事ことゆゑに、是これはお留とどまり遊あそばした方が宜よろし
 うございませう。と申まう上げると、国こく王わう真赤まつかになつて怒いかり、王これ「是これは怪けしからん、無礼ふれい
 至極しごくの奴やつだ、何なんと心得こころえて居をる、是これほどの名作めいさくの詩を、詩になつて居をらんとは案外あんぐわい
 の何どうも失敬しつがいな事を申まうす奴やつだ、其分そのぶんには捨置すておかん、入牢じゆうらう申附まうしつける。さアどうも入
 牢じゆうらう申附つけられて見ると、仕方しかたがないから謹つゝしんで牢舎らうしやの住居すまゐをいたして居をりますと、
 王わうもお考へになつて、ア、氣の毒いきどろな事をいたした、さしたる罪つみはない、一時いちじの怒いかりに任まか
 て、シロクシナスを牢舎らうしやに入いれたのは、我わが誤あやまり、第一だいいち国内こくないで一等とうの学がくしや者しやといふ立派りつぱ
 の人物おしこを押込おしこめて置おくといふは悪わるかつた、とお心附こころづきになりましたから、早速さつそくシロク
 シナスを許ゆるして、御陪食ごはいしよくを仰おほせ付けになりました。王わうの前に出でまして、シ「はからず放はうめ
 免んを仰おほせ付つけられ、身みに取りまして大慶たいけい至極しごく、誠まことに先頃さきころは御無礼ごふれいの段々だん／＼、御立腹ごりつぷく
 の御様子ごやうすで。王「イヤ先日せんじつは癩かんが起たつて居をつた処ところへ、其方そのほうが逆さからつたものだから、詰つま
 らん事を申まうして氣の毒いきどろに心得こころえ、出牢しゆうらうをさした、其方そのほうが入牢中じゆうらうちゆうに一詩し作しつたから

見て呉れ。シ「は、ツ。シロクシナス番兵を見返りまして、王の詩を手に取り上げ、シ「御急作でございますか。王「左様ぢや。シ「へーツ。と見て居る内に、渋い苦いやうな顔をして、シ「番兵殿、手前をもう一度牢へお連れ戻しを願ひます。―余程不作と見えまする。夫に似たお話がございます。

是は日本の事で、あるたびそう、或旅僧が峠を越えて来ますと、寒風が烈しくフーフーツ吹捲りますので堪り兼ねて杉酒屋といつて、軒の下に杉を丸く作つて、出してあります居酒屋へ飛込んで、僧「御亭主や。亭「はい、お掛けなさいまし。僧「余り寒いから一杯付けてお呉れ。亭「工畏こまりました、此方へお掛けなさいまし。僧「一寸小便に行きたいが、何処か用を足す処はあるまいか。亭「裏の畑に担桶が並んで居ますから、夫へなさいまし。僧「さうかい、……お、寒い。裏の田圃へ出て見ると奥の方の物置きの中に素裸体で年の頃三十二三になる男が棒縛りになつて居るのを見て、和尚は驚ろき、中へ飛込んで来て、僧「御亭主。亭「へエ。僧「アノ何か素裸体で物置きの中に棒縛りになつて居るものがあるが、あれは何だね。亭「あれは何で、旅人でございまず。僧「何を悪い事をしたのだえ。亭「エ、悪い事をしたものではございせんがね、私の家へ来て、酒を一杯出せといふゆゑ、一合附けて出しますると、湯呑で半分も飲まない

内に、渋い面をして、是までに斯んな渋い酒は飲んだ事がないといひましたから、夫を又
 他へ行つて云はれるとね、私の処の商売に障るから、他へやらねえやうに棒縛りに
 したんでございます。僧「是は怪しからん事をするものだな、どうか勘忍してやつて呉
 れまいか。亭「いや勘忍出来ません、彼れを助けると外へ行つて喋舌るからいけません
 ……お爛が附きましたよ。僧「ハイ、是が猪口かい、大分大きな物だね、ア、宜い工合
 についたね。グーツと一口飲むか飲まん内に旅僧が渋い顔して、僧「アツ……御亭主、
 序に愚僧も縛つてお呉れ。

青空文庫情報

底本：「明治の文学 第3巻 三遊亭円朝」筑摩書房

2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行

底本の親本：「定本 円朝全集 巻の13」世界文庫

1964（昭和39）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

詩好の王様と棒縛の旅人

三遊亭円朝

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>